

普段のご利用にも
お得なサービス
がたくさんあります！

入会
不要

①回数券

約1回分お得！

11回分で
¥3,100



「しおかぜ」
車内で販売

②ポイントカード

塩屋商店会で使える

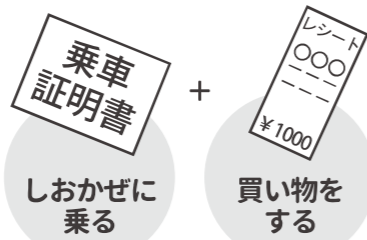
車内で
配布

乗車1回で1ポイント
10ポイントで¥100の商品券に！



③利用促進券

1枚につき乗車料金¥100引き



割引
ゲット！

※使用期限内であればいつでも利用可能
※他者への譲渡もOK

対象店舗と実施日・進呈条件

●イオンジェームス山店【「イオンジェームス山店」下車】
毎週火曜と毎月20・30日 | ¥3,000 (税込) 以上の買物

促進券
2枚

●コープミニ塩屋店【「神戸信用金庫前」下車】
毎日 | ¥1,000 (税込) 以上の買物

促進券
1枚

他にも

●コープサークルの見学
コープミニ塩屋組合員集会室 | コープサークルの見学
「見学証明書」をレジまでお持ちください。
詳しくはコープミニ塩屋店 751-0665

促進券
1枚

*利用促進券の提携店舗を募集しています。詳しくはHPまで

■ファンクラブ特典詳細はHPへ



<https://shiokaze.fun/>
【塩屋しおかぜ】で検索
ご支援等に関する詳細も
コチラへ

■ファンクラブ会員の更新・新規入会方法

ゆうちょ銀行 00980-6-211473
塩屋コミュニティバスを走らせる会



会員証の例

希望口数の年会費を上記の口座までお振込みください。
郵便局では払込用紙をご利用いただけます。
※お名前・ご住所をお忘れなくご記入ください。入金確認後、一週間程度で会員証を郵送します。
※複数名でお申し込みの場合は、全員のお名前と住所、それぞれの入会口数をご記入ください。

●会員期限は4月から翌年3月末までの一年間です。
●年度途中の入会であっても、一律新年度(4月)での更新となります。

【運行に関するお問合せ】

山陽タクシー株式会社
☎ 078-753-0077
✉ staxi-shiokaze@sanden-group.jp

広告枠

しおかぜ便り

地域の足をみんなで乗って支えよう、乗ろう
No.22
2022年3月

塩屋コミュニティバスを走らせる会 発行

塩屋まちづくり推進会・塩屋地区連絡協議会・塩屋婦人会・塩屋ふれあいのまちづくり協議会・塩屋北ふれあいのまちづくり協議会

「しおかぜ」運行継続へご協力ください いろいろな支援方法があります

2021年度も、塩屋コミュニティバス「しおかぜ」へ多大なご支援をいただきありがとうございました。みなさまからの協賛金やファンクラブ会員費はすべて運営費として運行継続のための事業や『しおかぜ便り』の発行に利用させていただきました。

「しおかぜ」は、さまざまな形でご支援を賜っております。日頃の積極的なご利用はもちろん、その他の方法でも、地域内外のどなたにも支えていただけます。今現在の地域の足として、また、将来の地域の足として、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

<h3>1 しおかぜファンクラブ</h3> <p>個人は一口¥1,000から、法人は¥10,000から、何口でもご入会いただけます。イオンジェームス山店では、利用促進券引き換えに必要な乗車証明書が会員証提示で不要になります。</p>	<h3>2 しおかぜ便り 広告掲載</h3> <p>しおかぜ便りは、塩屋北小学校区・塩屋小学校区の約8千戸に配布しています。一枠¥3,000から。発行ごとにお申込みいただけます。今号は4ページ下段に掲載しています。</p>	<h3>3 提携サービスのご提供</h3> <p>しおかぜと提携し、促進券の配布や割引サービスなどをご提供いただける店舗・団体を募集しています。ご協力いただいた方は、しおかぜ便り紙面などでご紹介いたします。</p>	<h3>4 協賛金</h3> <p>個人・団体問わずいつでも受け付けています。「協賛金」という旨を書き添えていただき、ファンクラブ会員入会用と同じ口座へお振り込みください。</p>
--	---	---	--

入会方法はコチラ

2021年度の会員費・広告費・協賛金は、合計218,000円でした。ご協力いただいたみなさま、誠にありがとうございます！

※会計監査完了後、ホームページに収支決算報告を掲載します

塩屋北町 2022年4月1日 ルート・時刻表 一部変更します！

※現在、国土交通省へ運輸手続き申請中

ダイレックス塩屋北店前にバス停「向井」を、塩屋北地域福祉センター正面に新規バス停を新設し、併せて時刻表を変更します。詳しくは、新しいポケット時刻表*をご覧ください。

*車内・塩屋駅・各地域福祉センターへ設置

「しおかぜ」以外にも さまざまな取り組みを 行っています

のぞみ
ほろかいだい
デマンド型バス「望海」実証実験中

“海を望む”と書いて望海台と名付けられた塩屋町8丁目は、かなりの急坂であることから、より走行し易いタクシー車両を採用し、事前予約・乗合制のデマンド型バスの実証実験を行っています。最大4名まで乗車可能。一度に人が集まるほど料金が安くなります。

2・3ページへ▶

スズキナオさん
寄稿

4500字超え体験レポ！

『塩屋を走るコミュニティバス「しおかぜ」に乗ってわかったこと』

塩屋を走るコミュニティバス

「しおかぜ」に乗ってわかったこと スズキナオ

塩屋には何度も行ったことがある。と言っても、そのほとんどが旧ググゲンハイム邸で開催されるイベントに参加するため、町の中を歩いた経験となると数えるほど。それも駅周辺を軽く散策したぐらいである。

そんな私だから、「しおかぜ」というコミュニティバスが塩屋を走っていることは、まったく知らなかった。旧ググゲンハイム邸の管理人・森本アリスさんの話で初めてその存在を知り、「しおかぜ」に乗ったら塩屋の町の面白さが体感できるかもしれません」というようなことを言われて「じゃあ乗ってみるか」と思った。

朝9時、私は塩屋駅前にやってきた。取材日は3月1日。いかなご漁の解禁日で、駅前の鮮魚店「魚一」には行列ができている。価格は1kgあたり3000円ほどとのこと、ここ数年、不漁傾向が続いて高騰しているらしい。昔は身近なものだったのが、今ではかなりの高級魚になっているという。

私には手が出ないな……と思いつつ、「しおかぜ」の乗り場へ向かう。今まで気づけなかったが、塩屋駅の改札を出てすぐの場所に案内板があり、「しおかぜ」のルートマップ、時刻表が掲示されていた。

ルートマップと時刻表が載ったペーパーが無料配布されていたのでそれを見て、ここ数年、不漁傾向が続いて高騰しているらしい。昔は身近なものだったのが、今ではかなりの高級魚になっているという。

私には手が出ないな……と思いつつ、「しおかぜ」の乗り場へ向かう。今まで気づけなかったが、塩屋駅の改札を出てすぐの場所に案内板があり、「しおかぜ」のルートマップ、時刻表が掲示されていた。

ルートマップと時刻表が載ったペーパーが無料配布されていたのでそれを見て、ここ数年、不漁傾向が続いて高騰しているらしい。昔は身近なものだったのが、今ではかなりの高級魚になっているという。

その都度、運転手さんが向こうの車に向かって手を上げ、「ありがとうございます！」と声をかけている。

雨模様ゆえか他の乗客はなかなか現れず、そのため、運転手さんのお話を少し伺うことができた。「しおかぜ」は2台の車輛で運行されており、一つの車輛に一人の運転手さんが乗って朝から夜まで走っている。その一人、畑邦信さんにお話を聞いた。

私は塩屋駅前から改めて西ルート行きに乗車し、「中野センター前」で下車した。かつてはショッピングモールのさががけのような場所だったという「中野センター」に、一軒だけ営業している「ライオン」という喫茶店があり、そこに立ち寄りたかったのだ。

「ライオン」へは数年前、友人に教わってコーヒーを飲みに来たことがあった。ドアを開けると、その時と変わらず、古いゲームを内蔵したテーブルとカウンター数席の空間が広がっていた。

ランチタイムの軽食類はすべて600円。この日のおすめは「すき焼き」とのことで、それをいただくことにした。小鍋に入ったアツアツのすき焼き。溶き卵にひたして食べたお肉はとても柔らかく、「これが600円とは！」と感謝したい気持ちになる。

お店を出て、またしばらく歩くことにした。徐々に雨脚が強くなってきたが、一部の好事家の間で「塩屋のバルテノン神殿」と呼ばれているらしい、「塩屋谷川放水路」前に立つ流木止め用の柱を眺めに行ってみた。

その近くの真田山を抜ける道を通

受け取っておいた。

最寄りの「しおかぜ」の乗り場は駅から徒歩3分ほどの近さだ。山陽タクシーの待合所との兼用になっている。

到着を待つ間に、基本的な情報をメモしておく。「しおかぜ」の運行は月曜から土曜で、日曜・祝日は運休となっている。乗車料金は大人300円、小学生200円、未就学児は無料とのこと。乗客定員は9名。運行ルートにはイオンやマルアイがあるジェームス山の方へ向かう「西ルート」と、塩屋北町方面へ向かう「東ルート」の二つがある。午前9時台から午後4時台までの「日中便」と午後5時から午後7時までの「夜便」があり、「夜便」は限定的なルートで走るようだ……と、ルートの時間帯の部分が少し複雑に感じたが、とにかくまずは来たバスに乗ってみることにする。

最初に乗ったのは「西ルート」を走るバスだった。乗客は私を含めて5名ほど。乗車時に運転手に行き先を告げるルールになっていて、「イオンまでお願い」「マルアイまで」と、買い出しに行くために利用している方が多いようだった。出発すると間もなく、道は一気に上り坂になる。急な斜面や階段が山に沿ってうねるように伸びているのが窓から見える。

いくつもの停留所を通りながらバスは15分ほど走り、「西ルート」の端で

ると、いきなり住宅街広がっていて、こうして短い距離で風景がどんどん変化していくのが塩屋の面白さだと感じた。

「塩屋台公園」の停留所にたどり着いたので、そこから「まっさきクリニック前」という停留所まで、再び「しおかぜ」に乗った。私が行き先を告げると、乗客のひとりが「今、病院は休憩時間ですよ」と親切に教えてくださった。「あ、病院に行くわけではないんです」と答えた私の目的はその近くにある「乙姫神社」という神社だった。

そこは竜宮伝説が伝わる神社だと事前に聞いており、見に行ってみようと思ったのだった。が、辺りを歩けど歩けど、それらしき場所が見当たらない。住所を検索しようとスマートフォンをいじっているうちに、なんと充電が切れてしまった。道をたずねようにも通行人の姿がない。そうこうしているうちに雨がよいよ激しくなり、上着を通して中に着ているトレーナーまで濡れてくる始末。かなり体が冷えてしまったので、一度避難しようと、さつき運転手さんが教えてくれた「ダイレックス」というスーパーに入る。

とにかく少しでも体を温めようと店内を見て回っていると、ここでもいかなごが販売されていた。やはり1kg3000円ほどだが、その中に1パックだけ、半量入りでおよそ1500円の値がついているものがあった。量が半分なのだから当然なのだが、1500円なら手が出そうだ、というか、ここでこれを買えば、ずぶ濡れになって歩いた意味も少しはあったよう

ある「マルアイジェームス山店」に停車した。私もここで一度下車してみることに。

駐車スペースから改めて「しおかぜ」の車体を眺めてみる、車の両側のデザインが異なっていることに気づく。どちらも一般公募で集まったデザインのの中から選ばれたものなのだとか。

「マルアイ」をのぞいてみることにした。「マルアイ」は兵庫県加古川市に本拠を置くスーパーマーケットチェーンで、朝からすでに買い物客で賑わっていた。ここでもいかなごが売られていて、人々が「今日からかあ」「ええ値段やな」などと話しながらそれを眺めている。その隣にはいかなごを水洗いするためのステンレス製のザルや、くぎ煮の保存に適した形のタッパーが売られていたり、「マルアイ風いかなごき煮のつくりかた」と題したレシピが配布されていたりして、地域の方々のいかなご愛を感じる。

店を出て、そのまま周辺を散策してみることに。塩屋駅に掲示されている広告でしか見たことなかった「ジェームス山自動車学院」の前を通り、「ここにあったのか！」と謎の感慨にふけったりした。

それにしても、歩いていて感じるのは土地の高低差の激しさだ。ジェームス山周辺には大きなマンションがいくつも建っているが、その脇道を入ると驚くほど急な下り坂が現れ、降りてみると行き止まりになっていたりする。足を踏み外してもしたら、そのまましばらく転がっていきそうな坂、坂、坂。スリルを感じながら徐々に下って

な気になるじゃないか。

いかなごを買い、さらにその近くにある農産物直売所「めぐみの郷」で美味しそうな白菜や大根を購入。謎の買い物心に火が付いてしまった。その結果、エコバッグの持ち手が肩に食い込むほどの重さとなった。

雨の中を歩きつつ、「しおかぜ」の停留所を探す。ほどなくして「塩屋北小学校」の停留所が見えてきた。しかし、私はここで思った、この重たい荷物を担ぎ、塩屋台付近の高低差を自分の体で体感してこそ、ようやく「しおかぜ」のありがたみがわかるのではないかと。

下校時間になったのか、近くの小学校からたくさんの子どもたちが出てくるのが見えた。小学生たちの足取りの軽さを少しは見習おうと、私も歩く。白くかすんだ視界の向こうに明石海峡大橋の主塔が高くそびえるのがうっすらと見える。

足を滑らせぬよう慎重に階段を下り、塩屋台公園にある大池のほとりを歩く。

運動不足気味の私の膝はとうにガクガクである。

ようやく、塩屋駅周辺の商店が立ち並ぶあたりまで戻ってきた。

田仲とうふ店の豆乳を飲むと、失われた体力がみるみる回復していくように思えた。

名物の「ゆし豆腐」や「とうふスティック」を買って、おからをたくさんサーブスしてくださった。豆乳ですっかり回復した私にとっては、おからの重さは筋肉を鍛えるための

いくと、「しおかぜ」のロゴマークが見えてきて、そこが「下代公園」の停留所だとわかった。時刻表を見るに、もうすぐバスが来るようだ。

しばらくして現れたバスに乗ると、運転手は先ほどと同じ人で、なんと今から「マルアイ」の停留所まで行くところだという。おっかなびっくり下ってきた坂を、また再びバスに乗って登っていく。終わらないループにハマりこんでしまったかのようでちょっと笑えた。

バスは「マルアイジェームス山店」の停留所にしばらくの間停車した。「しおかぜ」に乗って塩屋を散策している旨を伝えると、運転手さんが「このバスはこれから塩屋駅前を経由して東ルートへ入りますので、そこまで乗っていかれてはどうですか？」と提案してくれた。朝から重たい曇り空が広がっていたのだが、ついに窓に雨粒が落ちてき始めた。提案してもらった通り、ここは東ルートの端まで乗せてもらい、とりあえず「しおかぜ」の全ルートを走破（というか私は乗っているだけだ）してみよう。

その停留所からの乗客はおらず、しばらくは私一人がバスに乗り、雨のドライブに連れ出してもらっているような贅沢な気分を味わった。バスが塩屋駅前から今度は東ルートへ入り、塩屋台方面へ向かう。ジェームス山方面も急な坂だと感じたが、塩屋台付近はそれに輪をかけたような急勾配だ。さらに道が入り組んでいて細く、向かいから車が来ればすれ違うのもやっとな感じである。

ありがたい負荷のように感じられるのだった。

とはいえ、塩屋北町あたりから塩屋駅前まで歩いて戻って来ただけでも相当疲れた。ドライブ気分が「しおかぜ」に揺られていたあの頃の自分がずいぶんと幸せ者に思える。

塩屋駅前から電車に乗って家に帰り、早速、買ってきたいかなごをバッグから取り出した。半日ほど「しおかぜ」に乗っていた中で、乗客の方々がいかなごの話をしているのが何度も聞こえてきた。印象に残ったのが「私、くぎ煮も好きやけど、釜揚げ好きやねん。いっくらでも食べてまうわ」「ああ、釜揚げ美味しいなあ」という会話だった。いかなごと言えばくぎ煮だと思っていた私にとって、それはすごく新鮮に響いた。

私もそれにならない、釜揚げにして食べることにする。たっぷりの水を沸かして塩と酢を入れ、身をくずさぬように優しく煮ればいらしい。たまらなく香ばしい湯気が立ち、ポン酢をかけて食べてみると、ふっくらした歯ごたえで、うなるほどに美味しい。

「しおかぜ」に何度も乗ったり、雨に打たれて歩いたりした一日の終わりに、こんなご褒美を得た。ちょっと待てよ……この釜揚げ、田仲とうふ店の「ゆし豆腐」に乗つけて食べたらどれだけ美味しくなるだろう……。

天気の良い日に今度こそ坂の上から塩屋の町並みと海を見渡そうと、そう胸に誓いつつ、私の優雅な晩酌はスタートしたのだった。

